

12/11(土) 生涯教育研修会

「医薬品からの影響と対応を知ろう」御受講の皆様へ

当日時間の関係で質問への回答を後日ホームページにてとお伝えしておりました。

下記のとおり、講師の中村先生からおあずかりいたしましたのでお知らせいたします。

ロキソニンによる腎機能低下の機序について

簡単に言うと、ロキソニン服用により腎動脈が収縮し腎血流を減少させると考えられています。腎臓に血液が十分に供給されなくなり、さらに腎機能を悪化させるおそれがあります。特に、高齢者や脱水等は危険因子となります。

ロキソニン服用により、「むくみ」、「尿量の減少」、「倦怠感」、「食欲不振」、「吐き気・嘔吐」などが見られた場合には、すぐに連絡するよう指導をお願いします。

参考)

ロキソニン の主な効果は、炎症局所におけるプロスタグランジン(PG)の産生阻害である。組織が損傷されると、ホスホリパーゼ A2 により細胞膜のリン脂質からアラキドン酸が遊離される。ロキソニンは遊離されたアラキドン酸から PG を合成する経路の律速酵素であるシクロオキシゲナーゼ (COX)の働きを阻害することにより抗炎症・鎮痛作用を発揮する。

腎において PG の中で特に PGE₂、PGI₂ というのは糸球体輸入細動脈を始めとする腎血管拡張・腎血流の維持に関与しているため、ロキソニン投与によりこれらの PG 産生が阻害され腎血流量と糸球体濾過量が減少し腎機能が低下する。

電解質についても腎内 PG は尿細管での Na 再吸収、集合管での H₂O 再吸収を調節しており、ロキソニン投与による PGs 抑制により Na および H₂O が貯留し、むくみや低 Na 血症が起こると考えられている。